

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和五年十一月句会(第一三八回)

兼題 「銀杏落葉」

開催日 令和五年十一月二十五日

開催場所 生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

(三点句)

凍て空や筆を加える住所録  
小春日やいつも通りの友の声

艸寛  
小牧

(二点句)

風待ちぬ銀杏落葉を浴びたくて  
銀杏落葉ひらり歩道が演舞台  
筑波嶺の出船入船鳶の石  
渡りくる白鳥田の中食事会

寿歩  
艸寛  
玄鳥  
艸寛

(一点句)

青に映えケルン塔下の銀杏落葉  
銀杏黄葉ラミネートして葉にす  
石段のいちよう落葉のすべり台  
里山のもう暮れゆきて柿の秋  
熊ベルを鳴らし鳴らしの紅葉谷  
秋麗大隈庭園留学生  
蟻螂の斃る気配や勝手口

小牧  
徹心  
互酬  
小牧  
寿歩  
夢心  
玄鳥

(投句)

銀杏落葉皇居の濠に浮かびけり  
漱石の本に落ちゆく銀杏かな  
ウクライナ千秋楽はいつ来るの  
銀杏黄葉絵画館まで八十間  
山路行くバスから臨む大雲海  
ゴッホならどう描いたか銀杏黄葉  
月待の落葉踏みゆく峠かな  
短日に急ぎ買い出し独り身や  
蓮掘りは脱サラというへ世代  
秋恋し男体女体の筑波山  
新蕎麦を出すも食べるも西洋人  
銀杏黄葉夢の絨毯踏み分けて

夢心  
玄鳥  
互酬  
徹心  
夢心  
徹心  
玄鳥  
艸寛  
小牧  
互酬  
寿歩  
徹心

『句会後記』

兼題は「銀杏落葉」、句会当日は丁度よい見頃を迎えていました。今回は実験的に投句選句とも一人四句ずつということと不安もありましたが、三十句近い俳句が並び、以前の賑やかさを取り戻したようです。来月もこの方式を続けることになりました。

(玄鳥)

(六点句)

●箒跡残る古刹の今朝の秋

互酬

選評：理屈抜きに好きな句です。作者が見た光景としても凜とした佇まいがみてとれますが掃除をしたのが本人ということ聞きより納得しました。そこには紛れもなく作者の手触りがありました。

(小牧記)

(四点句)

●高窓の陽ざしの終い冬座敷

寿歩

選評：季節の移ろいを感じるのには草木、風、気温等いろいろあるが、陽射しもその一つの現象であろう。句はそこに焦点を当て、旧家の伝統的な家屋の高窓から座敷に射し込んでいた陽が冬の訪れで無くなった一抹の寂しさを詠んだ。高さのあるフロア、その上の方にある窓、暗くひっそり閑とした冬座敷の様が目につかぶ。

(徹心記)

●秋空を背に白樺の冴え冴えと 夢心

選評：高く澄んだ青空と、その天に向かって寒さで引き締まり力強く伸びている白樺。

絵葉書のような鮮やかな色彩と構図が浮かびます。『冴え冴えと』に高地の冷気や透明な大気も感じます。厳しい冬に入る前の刹那の美しさが詠まれていて良いなと思えました。

(寿歩記)